

茂木外務大臣による対ASEAN外交政策スピーチ 「ゴトン・ロヨンの精神とともに、新たな協力のステージへ」

令和2年1月10日
外務省

日ASEAN協力の3つの新たな方向性:

※ ゴトン・ロヨンとは、インドネシア建国の父、スカルノ大統領が示した「ともに働く」という精神を指す。

①「人を育てる」、②「制度を整える」、③「英知を集める」

①「人を育てる」

インドネシア市民警察活動(POLMAS)支援

- 市民や地域社会に密着した警察活動の確立。2002年に西ジャワ州ブカシで開始。
 - ✓ ①交番制度の導入
 - ✓ ②警察官の人材育成(技術協力を通じて市民警察97名, 鑑識技術25名の指導官を育成)
- 現在, インドネシア市民警察活動は全34州の半分(17州)まで拡大。
- 2017年から日本とインドネシアが協力し, 東ティモール市民警察能力向上支援も開始。日本とインドネシアでともに「人を育てる」段階へ。



通信指令の指導の様子
出典: JICA

インドネシア海上保安機構(バカムラ)への支援

- 日本の海上保安庁とインドネシア海上保安機構(バカムラ)が協力して, 研修等を通じて, 海を守る人材を育成

【参考】2020年の研修:

- 海上犯罪(海賊, 密輸・密航等)の取締能力の強化
- 海上犯罪現場における証拠保全・鑑識等の初動捜査能力の向上

- 研修以外にもこれまで以下の協力を実施。



日本から供与した巡視艇



日本海上保安庁巡視船(つがる)のインドネシア寄港
(2018年7月)



海上保安機関の合同訓練
海賊制圧訓練
(2018年7月)







海上保安機関の合同訓練
救助訓練
(2018年7月)

産業人材育成協力イニシアティブ2.0

- デジタル経済や「第四次産業革命」に対応した新たな高度人材を日本とASEAN諸国がともに育成
 - ✓ アジア地域において2018年から5年間で8万人規模の高度人材を新たに育成(以下5つが協力分野)。
 - ✓ これまでの「産業人材育成協力イニシアティブ」の後継プログラムとして、2018年から協力分野として「産業高度化力」を追加。
新規協力分野(2018年～)

既存の協力分野(2015年～)

実践的技術力	設計・開発力	イノベーション力	経営・企画・管理力
ものづくりの現場を支える熟練技術者・技能労働者の育成 	インフラ開発, 製品設計・開発をけん引するエンジニアの育成 	イノベーションを推進する研究開発人材の育成 	企業の経営・企画・管理を主体的に担うミドル・マネジメント層の育成 
例: メコン地域のための素材加工技術支援	例: マレーシア国際工科院支援	例: ASEAN工学系高等教育ネットワークプロジェクト	例: ベトナム日本人材協力センター・ビジネス人材育成プロジェクト



産業高度化力

デジタル経済や第4次産業革命の到来に対応し、企業の高度化をけん引する人材の育成



コネクテッド・インダストリーズ人材育成

日ASEAN技術協力協定

- 2019年5月に締結した日ASEAN技術協力協定によって、**共同体としてのASEANに対する技術協力が可能に**。同協定によって、日ASEAN共通の課題に対処するための人材育成に貢献し、ASEAN共同体の発展を支える。
 - ✓ 具体的な技術協力(例):
 - ASEAN各国及びASEAN関連施設(ASEAN事務局, ASEAN防災人道支援調整センター, 7つのASEANセンター(注)等)からの研修員の受入れ, ASEAN関連施設に対するJICA専門家等の派遣や機材供与の実施。
第1号案件: サイバー・セキュリティーに関する日本での研修(2020年1月, 2週間)
- 注: ①持続可能な開発研究と対話のためのASEANセンター, ②活力ある高齢化及びイノベーションのためのASEANセンター, ③日ASEANサイバーセキュリティー能力構築センター, ④軍医学のためのASEANセンター, ⑤ASEAN災害緊急ロジスティックシステム, ⑥ASEAN文化センター, ⑦社会事業及び社会福祉のためのASEAN訓練センター

アタッチメント・プログラム(日ASEAN統合基金)

- CLMV各国の若手政府職員をASEAN事務局に1年間派遣。訪日研修を含め行政実務能力の向上へ。
 - ✓ 2001年から日本が拠出した基金を通じて実施(2001年から日・ASEAN統合交流基金(JAGEF), 2007年以降はJAIF)。
 - ✓ これまでにカンボジア・ラオス・ミャンマー・ベトナム(CLMV)の**合計87人**が修了。



2017年1月訪日研修(出典:ASEAN事務局) 2018年12月修了式(出典:ASEAN事務局)

②「制度を整える」

民主的国づくり

➤ ASEAN各国とともに、その国の歴史や環境に寄り添いつつ、あわせて民主的国づくりを支援。

- ✓ カンボジア与野党の若手政治関係者招聘
 - 日本の議会・政党関係者との意見交換,
国会視察, 地方選挙視察

【参加者の声】

「カンボジア国内では殆ど機会がない他党関係者との交流ができた。」

「日本の政治, 民主主義, 社会など多くの経験及び知識を得ることができた。」

- ✓ ミャンマー: 少数民族地域における和平の促進
 - 笹川陽平ミャンマー国民和解担当政府代表による政府・軍・少数民族との間の対話の促進。

【少数民族関係者の声】

「本当に必要な時に支援してくれた者が真の友人。日本への感謝の言葉が見つからない。」



国会視察



参議院議員選挙開票視察



投票所視察



少数民族避難民キャンプ視察

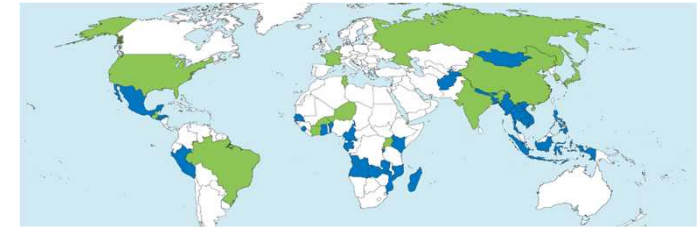
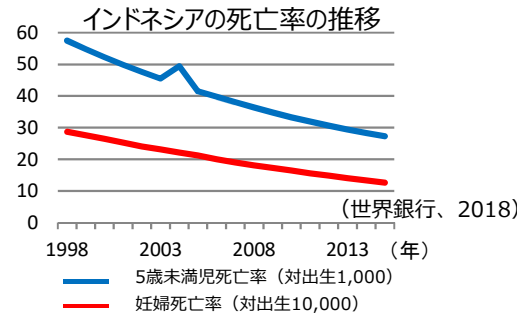
③「英知を集める」

母子手帳(技術協力)

- 英知を集め、「インドネシア流」の母子手帳を作成・全国へ普及。妊産婦・乳幼児死亡率が低下。
 - ✓ 1994年, 中部ジャワ州で試験的に導入。2004年, 全州で導入。現在世界50か国で導入。
 - 散在しがちな, 母の健康状態, 子の予防接種や発育情報を一つの手帳に統合。



母子手帳 (出典: JICA)



世界50か国で導入 (■) うち34か国でJICAの何らかの協力あり (■)

世界における母子手帳 (出典: JICA)

ASEAN防災人道支援調整センター(AHAセンター)

- 日ASEANが、英知を集め、ASEAN域内の防災・減災に貢献。
 - ✓ 2011年11月からジャカルタにASEAN防災人道支援調整センター(AHAセンター)を設置。
 - ✓ 主な任務: ①災害モニタリング, ②事前準備・緊急対応, ③防災にかかる人材育成。



災害状況を常時監視
災害情報をASEAN各国に共有
(出典: AHAセンター)



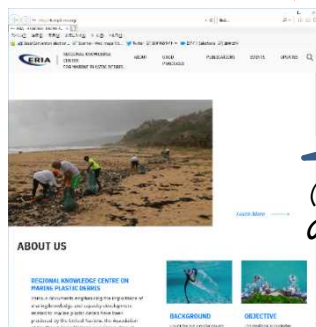
緊急対応
緊急備蓄物資提供
(出典: AHAセンター)



防災にかかる人材育成
無睡眠待機訓練
(出典: AHAセンター)

海洋プラスチックごみナレッジセンター

- ▶ 日本とASEANが英知を集め、有効な海洋プラスチックごみ対策の実現に貢献。
 - ✓ 2019年10月、ジャカルタにある東アジア・ASEAN経済研究センター(ERIA)に日本政府の拠出により設置。
 - ✓ 各国のプラスチックごみの処理や流出の実態、対策のベストプラクティス等の情報収集・分析
 - ✓ 情報発信、人材育成、普及啓発支援
- 各国内における革新的な取組や域内各国や地域間での相互協力の促進。



(例) ベストプラクティスの紹介
海洋プラスチックごみナレッジセンターウェブサイト



ごみが野積みされた最終処分場



廃棄物発電施設

ジャカルタ都市高速鉄道(MRT)

- ▶ 日本とインドネシアが英知を集め、**快適で速いジャカルタMRTを建設・運行。**
 - ✓ 昨年3月から、ルバックブルス～ブンダランHI区間が車で1時間以上の所要時間が電車で30分に。
 - ✓ 日本からの技術移転の結果、**インドネシア人の力で定時運行率99.8%**を実現。日本同様のマナーも普及。
 - ✓ ジャカルタの渋滞緩和に貢献。
 - ✓ 2020年末、東西線コンサルタント業務開始。2025年、南北線(フェーズ2)開業予定。



MRT外観



立つ人は左、歩く人は右



入り口を開けて並ぶ乗客



MRT車内

対ASEAN海外投融資イニシアティブ

- 日ASEANで出し合った英知と、ASEAN向け海外投融資で、ASEANの更なる発展を支える。
 - ✓ 日本は、3年間(2020年～2022年)で官民合わせて30億ドル規模の資金の動員を目指すべく、JICAの出資・融資を倍増させ、12億ドルの出融資を提供する用意がある旨を発表。



質の高いインフラの例
インドネシア地熱発電案件 (出典:ADB)

- ◆ 「質の高いインフラ」案件に対する出融資
電力, 水, 都市インフラ, 運輸, 情報通信等ASEAN地域内におけるインフラ整備の推進
- ◆ 金融アクセスを改善・女性のエンパワーメント
マイクロファイナンス等の金融サービスの提供を通じた中小事業者・女性・低所得者のエンパワーメントの促進
- ◆ グリーン投資促進支援
気候変動対策の一環として, 太陽光・水力発電, 省エネルギー事業等のグリーン投資の促進